

# ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2018 Round.9 Suzuka Circuit



ST600  
#71 Daiki Uehara

JP250  
#71 Kiyoshi Akama

HONDA

HRC

BRIDGESTONE

MUSASHI

Arai  
HELMET

YAMAHATAI  
TAMAMATE

NGK  
SPARK PLUGS

eif

TGK

ACTIVE  
Rev and Ride It!

RK  
TAKASAGO CHAIN

SUNSTAR

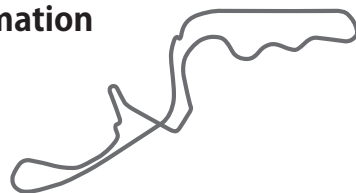
KRS

SIGNET

## ■ Mistresa RT HARC-PRO. Media Information

2018 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第9戦  
第50回 MFJ グランプリ スーパーバイクレース in 鈴鹿

三重県・鈴鹿サーキット (1周 5.821km)  
観客動員数：2万7500人 (2日間合計)



ST600 クラス  
#71 上原大輝

マシン：Honda CBR600RR タイヤ：BRIDGESTONE  
予選：14番手 (タイム：2分15秒347)  
決勝：6位  
シリーズランキング：11位

MFJ CUP JP250 国際クラス  
#71 赤間清

マシン：Honda CBR250RR タイヤ：DUNLOP  
予選：33番手 (タイム：2分35秒210)  
決勝：28位 (国際クラス13位)  
シリーズランキング：11位 (INT)



昭和電機では全日本ロードレースをより一層盛り上げるべくチームやメーカー、クラスを越えて各クラスのゼッケンナンバーが「71」のライダーとチームを応援する71プロジェクトを発足いたしました。

71プロジェクトでは、応援ツアーの開催や公式プログラムへの広報記載、応援グッズの配布、ピットウォーク時のスタンプラリーなど、様々な企画を計画しております。各クラスで#71を付けたチーム・ライダーのご声援をよろしくお願いたします！

<http://mistresa-71.com>



JSB1000  
Team KAGAYAMA  
#71 加賀山 就臣 選手

J-GP2  
TONE RT SYNCEDGE4413  
#71 三原 壮紫 選手

J-GP3  
Team P.MU 7C MIKUNI  
#71 小室 旭 選手

ST600  
Mistresa RT HARC-PRO.  
#71 上原 大輝 選手

JP250  
Mistresa RT HARC-PRO.  
#71 赤間 清 選手

# ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2018 Round.9 Suzuka Circuit

ST600 #71 Daiki Uehara JP250 #71 Kiyoshi Akama



Mistrésa RT

HARC-PRO

## 上原が得意のウェットレースで自己最高位の6位で最終戦を締めくくる



2018年シーズンの全日本ロードレース選手権も三重県・鈴鹿サーキットで最終戦を迎えた。昨年 MFJ CUP JP250 の国内クラスチャンピオンとなった上原大輝が全日本 ST600 に、全日本 J-GP2 クラスを走っていた赤間清が MFJ CUP JP250 にスイッチし、2人とも試行錯誤しながらも前進して来た。

事前合同テストがなかったため、今年も木曜日の特別スポーツ走行からレースウイークは始まった。ドライコンディションで世界屈指のテクニカルコースと言われる鈴鹿サーキットを攻略して行くが、なかなかタイムを縮められないでいた。ST600 で鈴鹿を走った経験値が限りなく少ない上原は、チーム、そして HRC アドバイザーの伊藤真一氏にアドバイスをもらいながら悩みに悩んだ。初日は、2分17秒784がベストタイムとなり、トップから3秒494差の19番手。2日目は、2分16秒843とタイムを縮めるものの順位は20番手に下がっていた。



JP250 #71 Kiyoshi Akama

赤間も鈴鹿で Honda CBR250RR を走らせるのは、今回のレースウイークが初めて。J-GP2 マシンとは、まったく違う走り方が要求されるだけに、その攻めどころを探りながらセッションをこなしていた。

公式予選に向けチームとディスカッションし、HRC のアドバイザーからアドバイスをもらい遅い部分を修正し、30分間のセッションに臨んだ。多くの ST600 クラスライダー



土曜日にドライコンディションのもと8周で決勝が行われた MFJ CUP JP250。スタートを決めた赤間は、一気に5つポジションを上げ、28番手でオープニングラップを終えると、混戦の中、予選と変わらないペースで周回。レース終盤に何度かポジションを入れかえ28位でチェックフラッグを受けた。

そして日曜日の朝を迎える。空からは雨粒が落ち路面を濡らしていた。僅か15分のウォームアップ走行でウェットコンディションでのフィーリングを確認。上原は、4番手タイムをマークし、ウェットでの速さをここでも発揮。レースに向けて気合いを入れていった。



ST600 #71 Daiki Uehara

ウェット宣言が出ていたため2周減算の10周で決勝レースは争われた。好スタートを見せた上原は、オープニングラップで9番手まで上がるとトップグループと変わらないペースで周回。レースも折り返しとなる5日目には、前接触があり7番手に浮上。8日目にも前を走っていたライ

ダーが転倒し、一つポジションを上げ6番手に上がると、さらにペースを上げて行き9周目に2分22秒465をマーク。ポジションは、そのまま6位ゴールとなったが、ベストタイムだけで言えば4番手タイム。トップとの差も3秒280と、最終戦で今シーズン最高のレースを見せたのだった。



ST600 #71 Daiki Uehara

### ■上原大輝コメント

「まずは今シーズン支えてくださったチーム、応援していただきました。すべての皆さんに感謝いたします。特にグランドスタンドの昭和電機応援席の皆さん、レースでは、すごく励みになりました。ありがとうございます。鈴鹿は、すごく難しくレースウイークに入っても、なかなかタイムを縮められずにいましたが、チームや HRC の伊藤さん、小野さんの的確なアドバイスをくださり、まだまだ足りないことだらけですが、自己最高位で最終戦を終えることができました。もっともっと努力して速くなりたいと思っています」

### ■赤間清コメント

「鈴鹿は世界屈指の難コースと言われる通り難攻不落でした。攻めるポイントがなかなか分からず、思うようにタイムを縮められませんでした。今回はエントリーも多く、速いライダーもたくさんいました。その中で、決勝では、いいペースをつかむことができ、ポジションを上げて行くことができました。予選でのポジションがもっとよくないといけないですね。これはシーズン通しても言えたことなので、来シーズンは、改善していきたいですね。今シーズンも応援ありがとうございました」



このリリースのお問い合わせは  
昭和電機株式会社 営業推進部 sales@showadenki.co.jp